

V トピックス

災害拠点病院として

文責／松原正明

当院は、これまで広域災害対策を目的に世田谷区保健所を中心として各病院、世田谷医師会、玉川医師会、世田谷歯科医師会、世田谷薬剤師会、助産師協会、柔道整復師協会、さらには区周辺部の自衛隊中央病院、三宿病院、東京医療センターが連携した協議会に参加しながら東京都区西南部の災害医療対策に携わってきた。以前は耐震構造が一部病棟で旧基準であったために、災害拠点施設としては不十分とのことから、2017年10月から東京都災害拠点連携病院として指定されていた。その後耐震工事を施行し、施設全体が震度6に耐える構造となり、災害拠点病院としての耐震基準を満たしたことから、2020年10月1日に東京都災害拠点病院の指定を都より受けることになった。

災害拠点病院の指定に当たっては、耐震構造だけではなく病院運営、設備などの要件があり、

- ・24時間緊急対応し、災害発生時に被災地内の傷病者等の受入れを行う
- ・災害派遣医療チーム(DMAT)を保有し、派遣体制があること
- ・被災後、早急に診療機能を回復できるよう、業務継続計画(BCP)の整備を行っている
- ・業務継続計画に基づき、被災した状況を想定した研修

及び訓練を実施すること

- ・食料、飲料水、医薬品等について、最低3日分を備蓄しておくこと
- ・被災地における自己完結型の医療救護に対応できる資機材を保有しておくこと

など様々な要件があり、現在要件が不十分である部分については、災害対策ならびに防火対策委員会を中心に漸次要件の拡充を図っているところである。この一環として、2020年11月21日には東京都立広尾病院減災対策支援センターの中島 康先生を迎え、幹部(管理者)向け「災害拠点病院の備え～管理者に求められる知識と対応力～」をテーマとして講習会を開催し、災害拠点病院としての活動のありかたについて、幹部(管理者)への周知とさらなる知識の向上を図ってきた。今後はこれらの経験をもとに、災害発生時に迅速な対応ができるように、全職員に対し日頃から災害に対する意識の改革・向上を図るとともに、訓練・災害マニュアルの策定、業務継続計画(BCP)などのアップデートと整備を行い、来るべき災害に対して玉川病院が地域住民に広域災害の拠点として信頼される存在となるべく努力をしてゆく所存である。

コロナ対策について

文責／高橋由美子

【新型コロナ感染症患者受け入れ】

2020年2月救急外来陰圧室での帰国者・接触者外来から診療を開始し、現在は入院重点医療機関、新型コロナ疑似東京ルール指定医療機関として中等症程度までの受け入れをしている。

入院病床の拡大等ICN・感染対策委員をコアメンバーとし、院内体制を整備してきた。空気清浄機、換気扇、ゾーニングとできる限りのハード面整備と、職員の感染対策指導を平行して実施してきた。追い付かない対策とやってみて生じる新たな問題の繰り返しであり、1年経過する今でも安堵する猶予ももらえず格闘している。しかし、情報や経験からマニュアル化し対応処理能力は関連部署協力体制の構築とともに確実に早くなっていると感じている。

【入院患者層の変化】

当初、当院の役割として軽症～中等症1程度の受け入れをしてきた。病状の悪化は昼夜問わずだが、低酸素状



態でも呼吸困難症状を訴えないという症例が多いことを、患者を受け入れ経験を積んできた現場の看護師たちは実感している。家族からの聞き取りも対面ですることができず通常診療よりも難しい側面がある。ケーススタディした成果を次に繋げていくことが重要であると痛感した。

第2波といわれる7月～8月は若年層が多く、隔離目的の療養生活支援といった状況でありホテル療養との住み分けが問われた頃だ。10～14日間の入院生活は軽症でも精神的ケアは重要で、動揺し涙する患者への励ましと生活指導は看護師の大切な役割であった。また、新たにコミュニケーションツールLINEのメッセージ機能を利用し、買い物代行リストや食事量の記録などに利用している。ナースコールとの使い分けをすることにより感染リスク回避と両者のストレス軽減につながった。

年末年始以降、介護が必要とされる高齢者の感染は肺炎の重症化を引き起こし、医療提供体制を見直す必要があった。その為、専用病棟は8月に陰圧装置を追加設置した元HCU機能の病室を人工呼吸器管理や、認知症を伴う患者の観察部屋としている。24時間継続する看護の負担は大きい。患者層の変化に対応し、自身の感染リスクに立ち向かいながら頑張ってくれている。

【通常診療の変化】

発熱外来はこの1年で気温や雨に悩まされた過酷なテント内診療から2つのプレハブ設置で環境は改善されてきた。一般診療と発熱外来との振り分けは看護師によるトリアージが重要になっている。症状が特徴的ではない感染者もあり、定期予約診療の方も発熱外来に誘導するケースが少なくない。

予約入院に関しては、時期によって改訂される院内フローに従い事前PCR検査、抗原検査を実施しなければ多床室を選択することが出来ない。緊急入院は検査結果が出るまで個室対応とし、院内感染防止に努力している。しかしながら、職員の感染発生や一般床からの陽性者確認は、病棟閉鎖、診療機能を一部停止する判断に至り、解除まで一定期間を要している。緊急を要する疾患については時期を逸脱してはならず安全に迅速に診療ができることを祈るような気持ちで毎日を送っている。

【急激な変化と労務環境】

看護ケアの安全の保証に人員確保は欠かせない。しかし、現状はそうはいかないことがあることをCOVID-19の対策と受け入れで目の当たりにしている。急速に業務量が拡大した感染管理、ハード面の整備や院内周知など多忙を極めた。各部署リリーフ体制はあるものの感染対策の視点から以前のようにフレキシブルにはいかない。社会的に必要とされながらも非難を受けるなどあってはならない現実もあり悔しい思いもした。今でこそ医療者への理解は進んだが、報われない気持ちだった。当然ながら直接かかわる部署以外も病棟再編成から一般の入院が集中し残業が増えるなどの二次的な影響も出た。また、職員の体調不良や、濃厚接触者としての健康管理と長期休養、度重なるスクリーニング検査など、休暇の扱いについても議論された。部署によっては温度差もあ



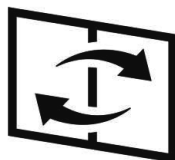
予防対策実施中



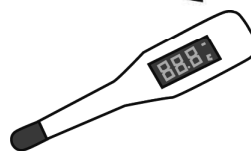
マスクの着用



手洗い・消毒



定期的な換気



検温のおねがい

公益財団法人 日産厚生会
玉川病院 感染対策委員会

り、その温度差からくる自粛のとらえ方、休憩室の利用方法など全体の意識を変える、行動を変えることの難しさを今なお感じている。緊張ばかりでは長続きしない頑張りメンタル面での支えや、お互いの労いの言動が継続のチカラだと思う。専用病棟で頑張っているスタッフ、担当している医師たちのメッセージのやり取りをみる機会があった。分かち合っているもの同士の築き上げた関係性は別の意味で励みなるものだと羨ましくもあった。

【おわりに】

COVID-19の影響によって社会は大きく変わり、完全に元に戻ることは望めないだろうし、変わったことを受け入れていき「新しい生活様式」が定着していくのかもし

れない。今後既感染患者の受け入れ認識、病院や施設など療養環境での共同生活をどう考え対応していくのかは課題である。対面のコミュニケーションが形を変えていく弊害は教育の側面や、日常生活でもでてくるだろう。

これから更に高齢化社会に入っていく日本の医療を支える心の通った看護が存在することを願いつつ、変化に対して受け止め活躍する現場のスタッフを誇りに思う。

	国の動向	当院の主な動き
4月	緊急事態宣言① 休校・時短営業など	野外テント診療・面会制限・院内臨時学童設置(6月終了) 職員メンタルケア開始
5月	レムデシビル承認 緊急事態宣言全面解除	玉川医師会PCRセンター(発熱外来内) 院内PCR運用開始 臨床実習受け入れ中止
6月	東京アラート	抗原検査開始
7月	Go Toトラベル(中止)	プレパブ設置
8月	第2波	病院入口サーモグラフィー設置・東3病棟改築
9月	国内感染者数8万人突破	HCU病床移動(旧ME室へ)・オンライン面会開始
10月		HER-SYS届け出可動
11月	国内感染者14万人突破	プレハブ待合室増設
12月	第3波	年末年始 体制強化(発熱外来・陽性者受け入れ体制)
1月	変異ウイルス国内確認	東2階病棟クラスター発生
2月	医療者ワクチン先行接種	基本型病院としてワクチンプロジェクト開始
3月	緊急事態宣言②	6日～職員ワクチン接種開始 サテライト病院連携

看護部イベント



■オンライン病院説明会



■プリセプター研修



■ラダー研修 修了式



■医療従事者応援メッセージ



■個人防護具着脱訓練



■特定行為研修 修了式・開講式

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

玉川病院コンサート2020年度

文責/栗原正利

2020年度玉川病院コンサートはCOVID-19のパンデミックのため一度も開くことは出来なかった。企画は考えたが、院内感染のため病棟閉鎖が起こり断念した次第。

開催するにあたりいくつかの制限を提案した。

- 1：通常は100人程度の観客を30人に制限する。
- 2：管楽器は行わない。
- 3：演奏者は二人以内のコンサートとする。
- 4：入院患者のみの観客で行う。
- 5：パーティションを置く。

パンデミックにより自宅内で制限された生活を強いられている時こそ、音楽が必要と考えている。しかしながら病院という感染者を治療する立場から院内での集会はすべて禁止となった。ワクチンが全員にいきわたる来年度からは、病院コンサートを再開したい。

地域活動

■ 東京都理学療法士協会協会世田谷支部

活動部署：リハビリテーション科

開催日：1回/月定期開催

内容：運営会議、研修会企画

場所：WEB開催

ケアマネジャー向け研修会(WEB開催)「ICFの説明と活用方法」

■ 個人防護具脱着デモンストレーション (玉川医師会)

活動部署：診療部、看護部、地域連携支援室

開催日：2020.4.24

内容：玉川医師会会員へのPPE着脱講習(講習・実技)

場所：玉川医師会 講堂



個人防護具脱着デモンストレーション

■ 世田谷高次脳機能障害リーフレット作成ワーキンググループ

活動部署：リハビリテーションセンター

開催日：2020.5.12、9.20

内容：世田谷高次脳機能障害リーフレット作成

場所：世田谷ボランティア協会・書面開催

■ 世田谷区高次脳機能障害施設連絡会

活動部署：リハビリテーションセンター

開催日：2020.5.29、9.11、2021.3.11

内容：連絡会議・情報交換

場所：世田谷区福祉人材育成・研修センター・書面開催

■ お家でチャレンジ！防災博士の挑戦状 Presented by 二子玉川ライズ

活動部署：看護部、地域連携支援室

開催日：2020.9.19

内容：防災について“楽しみながら学べる”冊子を共創・配布



■ 医療安全対策地域連携 I・I

活動部署：医療安全管理委員会

開催日：2020.10.12

内容：安全対策についての評価および情報共有・医療安全推進

場所：オンライン会議 東京共済病院

■ 世田谷区OT連絡会

活動部署：リハビリテーション科

開催日：2020.10.19、2021.3.19

内容：連絡会議・情報交換

場所：世田谷区福祉人材育成・研修センター・WEB開催

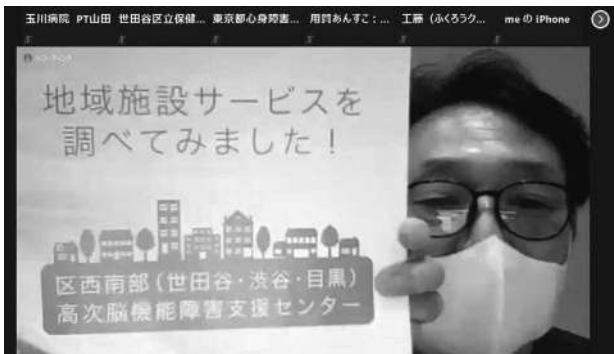
■ 区西南部高次脳機能障害者支援センター講演会・症例検討会

活動部署：リハビリテーションセンター

開催日：2020.12.2、2021.3.2

内容：圏域会議・講演会・症例検討会

場所：WEB開催



■ 医療安全対策地域連携 I・II

活動部署：医療安全管理委員会

開催日：2020.12.16

内容：安全対策についての評価および情報共有・医療安全推進

場所：オンライン会議 世田谷記念病院

■ 目黒いきいき福祉ネットワーク 症例検討会

活動部署：リハビリテーション科

開催日：2021.2.24

内容：症例検討会

場所：WEB開催

■ 世田谷区ST連絡会

活動部署：リハビリテーション科

開催日：2021.3.18

内容：連絡会議・情報交換

場所：WEB開催

■ 医療者用新型コロナワクチン接種説明会 (世田谷記念病院・世田谷神経内科病院)

活動部署：診療部、看護部、薬剤科、医事課、地域連携支援室

開催日：2021.3.27

内容：新型コロナワクチン接種に関する情報提供と見学会の開催

場所：玉川病院 講堂(新型コロナワクチン接種会場)



医療者用新型コロナワクチン接種説明会

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所